

社会科学研究所 2004 年度春季合宿研究会の行程

村上 俊介

2004 年 8 月、所長、事務局長、大矢根、嶋根所員の 4 人で中国社会科学院「都市発展と環境研究センター」を訪問し、黄平国際合作局長、牛鳳瑞都市発展と環境研究センター主任と会見し、社会科学研究所と中国社会科学院の学術交流のあり方について話し合った。そこから 2004 年度春季合宿研究会の準備が始まった。2004 年の秋には、「都市発展環境研究センター」所員李国慶氏と柴田所長の間でメールのやりとりが繰り返され、全体の構成が決まっていた。なお、李氏は日本留学の経験があり、日本社会研究者でもあって、日本語は非常に流暢である。

こうした交渉と並行して 2004 年の夏休み明けから社研プロジェクトとしての研究会も開き始めた。春季合宿研究会（北京）を実施する前の段階で行った研究会は以下のとおりである。

(1) 9 月 21 日(火) 16 時 00 分～18 時 00 分 生田社研会議室

テーマ：中国の国家戦略の展望－中国の戦略トレンド－

報告者：松田康博氏(防衛研究所主任研究官)

(2) 10 月 19 日(火) 16 時 00 分～18 時 00 分 生田社研会議室

テーマ：「新中間層」の台頭と社会構造の変化

報告者：徐 向東氏(日経リサーチ主任研究員、本学兼任講師)

(3) 11 月 16 日(月) 16 時 00 分～18 時 00 分 生田社研会議室

テーマ：中国経済の国際化

報告者：大橋英夫所員

(4) 3 月 3 日(木) 15 時 00 分～17 時 00 分 生田社研会議室

テーマ：北京のコミュニティ類型と近隣関係の特質

報告者：李 国慶(中国社会科学院・都市発展と環境研究センター研究員)

特に 4 回目の研究会は、交渉役の李国慶氏が来日した機会に報告を依頼し、当日は合宿研究会参加予定者への説明会も行った。

2005 年に入ってから、参加者を募ったところ、合計 26 名のグループとなった(別添資料「参加者名簿」参照)。

春季合宿研究会の概要は次のようなものである。

日程：3 月 13 日(日) 出発－3 月 18 日帰国。従って実質 4 日間の滞在期間中、初めの 2 日間を研究会に使い、3 日目を企業訪問と北京市居住地の見学(2 グループに分ける)、そして 4 日目は基本的に自由ということにした。もともと 4 日目は、北京市内胡同巡りと明の十三陵お

よび万里の長城見学（6名参加）の二つのオプションを用意し、希望者はそれに自費参加するかたちをとった。

研究会に2日もかけたのは、報告者の人数が多くなったからである。事前交渉過程で中国社会科学院の方で8人の報告者をたてるということになり（実際には7人になった）、社研の側もそれに釣り合うように最低4人は報告者をたてることになったからである。

以下、日程に沿った行動を報告する。

3月13日（日）18：10 発ノースウェスト機で北京発

全国婦人連合会経営の「好苑建国商務酒店（JIANGUO GARDEN HOTEL）」宿泊（一人一泊朝食付きで50ドル）

3月14日（月）中国社会科学院にて研究会

①李 春玲（中国社会科学院・社会学研究所副研究員）

「中国の社会成層と社会移動」

②町田俊彦（社会科学研究所所員）

「中央・地方の財政関係－日本と中国－」

③唐 均（中国社会科学院・社会学研究所研究員）

「中国の社会福祉政策と高齢化福祉」

④牛 鳳端（中国社会科学院・都市発展環境研究センター主任）

「中国の都市再開発の現状と政策」

⑤大矢根淳（社会科学研究所所員）

「中国北京胡同・四合院のイノベーション」

⑥李 国慶（中国社会科学院・都市発展環境研究センター副研究員）

「北京のコミュニティ類型と近隣関係の特質」

3月15日（火）中国社会科学院にて研究会

①孫 烈（中国社会科学院・世界経済政治研究所研究員）

「中国経済のグローバル化と世界経済への影響」

②大橋英夫（社会科学研究所所員）

「中国経済のグローバル化」

③越 英（中国社会科学院・工業経済研究所研究員）

「中国の産業構造の変容」

④張 浩川（社会科学研究所所員）

「中国中小企業の国際化」

⑤張 翼（中国社会科学院・人口労働経済研究所研究員）

「中国の労働問題」

⑥佐島直子（社会科学研究所所員）

「中国の戦略文化－ケン・ブースの手法－」

別添資料の日程表とは若干のずれがある。第一に黄平国際合作局長は欠席し、中国側の報告者はその結果、7人となった。第二に日程表では中国側報告者の名前が分からなかった部分があるが、実際には上記の人物である。

なお、3月14日夕には、中国社会科学院の招待による歓迎宴が開かれ、3月15日夕は専修大学社会科学研究所の側からの答礼宴が開かれ、相互の友好を確認しあった。

3月16日（水）

当日は、テーマ別にグループを二つに分けて行動した。一つは企業訪問であり、もう一つは現在の北京市内の地域的コミュニティ視察である。

企業訪問グループは、北京外語大学・北京日本学研究中心の宋金文副教授に加わってもらった。参加者は柴田、佐島、村上、加藤、熊野、水川、笠原、大橋（午前中のみ）、施（午前中のみ）の9名である。

準備段階で、中国社会科学院に訪問先を紹介してもらうことになっていたが、なかなか決まらず、北京に着いてやっと訪問先が決まるという事情もあり、参加者はもう一つのグループより少なかった。

午前中、予定されていたのは「同仁堂」という漢方薬メーカーの工場見学だけであった。しかも通常の見学コースを歩くだけだったので、ごく短時間で終了した。この工場は北京市の南東に位置し、北京市の中心部からは16kmあまり離れた「北京経済技術開発区」の中にある。工場見学の後、この開発区の「総合管理事務所」に立ち寄り、アポイントメントもないままに事務所にこの開発区の説明をお願いしたところ、管理委員会外事主管「李中州」氏が快く引き受けてくれた。李氏から、1991年開設以降の同開発区の経緯と現状そして今後の計画について説明を受けることが出来た。これは大きな収穫だった。

午後は、予定通り「北京富士通系統行程有限公司」を訪問した。これは日本国際交流基金北京事務所長の藤田安彦氏のお世話によって実現した。対応してくれたのは北京富士通の「総経理」松下裕信氏である。松下氏は1992年から事業を開始したこの会社の事業展開や、北京現地での従業員に対する労務管理の現状について説明してくれた。

北京市内の企業訪問グループは、午前中に高層住宅街道委員会・居民委員会を訪問し、新しい地域コミュニティの実情を視察した。午後は菊児胡同を訪問し新旧の四合院を訪問してその居民委員会で現状を尋ねた。北京の地域コミュニティ事情に関しては3月14日の研究会で李国慶氏と大矢根所員が報告をしているので、参加者の関心は高く、企業訪問を予定していたメンバーの何人かは、こちらに移動したので、予定より多くなった。参加者は、井上、土方、儀我、町田、溝田、内田、嶋根、福島、米田、殿村、田中、大矢根、金子、アブドワイト、原田、張の16名である。

この後、夕刻より、北京外語大学内の日本学研究中心に両グループのうち希望者が立ち寄り、日本学研究の学生（大学院生）と交流を行った。このとき、事前に北京に来ていた吉田雅明所員がこの交流会に加わった。なお、日本学研究の学生たちはすでに3月14、15日の中国社会科学院内での研究会にも10人あまりが出席しており（その中の一人は佐島所員の報告の際に通訳をお願いした）、全く初めて顔を合わせるわけではなかった。この交流会では吉田、金子、嶋根所員が「複雑系社会理論」のレクチャーを行い、のち歓談した。

3月17日（木）

この日は、基本的に自由行動とした。ただ、オプションとして北京市内胡同巡りと万里の長城（途中で明の十三陵）見学を用意し、希望者は自費でそれぞれに参加した。出発前の待機中、中国社会科学院都市発展と環境研究センター主任の牛鳳瑞氏と副主任陸氏がホテルを訪問してくれ、所長、事務局長らと歓談した。

夕刻、全員で反省会を開き、今後さらに中国研究プロジェクトを充実していくことを相互に確認しあった。



中国社会科学院前にて

中方参会人员

序号	姓名	单位	职称
1	李薇	国际合作局	副局长
2	牛凤瑞	城市发展与环境研究中心	主任、研究员
3	孙杰	世界经济与政治研究所	研究员
4	赵英	工业经济研究所	研究员
5	张翼	人口与劳动经济研究所	研究员
6	唐钧	社会学研究所	研究员
7	李春玲	社会学研究所	副研究员
8	张新平	城市发展与环境研究中心	副主任
9	李国庆	城市发展与环境研究中心	副研究员
10	宋迎昌	城市发展与环境研究中心	研究员
11	梁本凡	城市发展与环境研究中心	研究员
12	李宇军	城市发展与环境研究中心	副研究员
13	罗勇	城市发展与环境研究中心	副研究员
14	刘治彦	城市发展与环境研究中心	副研究员
15	李健	城市发展与环境研究中心	助研
16	何丽	城市发展与环境研究中心	助研

専修大学社会科学研究所春季合宿研究会
参加者名簿 (2005 年春)

	名前	所属	専攻	職務
1	熊野 剛雄	名誉教授	経済学	研究参与
2	加藤幸三郎	名誉教授	日本経済史	研究参与
3	井上 裕	名誉教授	経済理論	研究参与
4	土方 保	名誉教授	金融論	研究参与
5	儀我壯一郎	名誉教授	経営学	研究参与
6	町田 俊彦	経済学部	財政学	教授
7	村上 俊介	経済学部	社会思想史	教授
8	内田 弘	経済学部	経済理論	教授
9	原田 博夫	経済学部	財政学	教授
10	大橋 英夫	経済学部	アジア経済論	教授
11	水川 侑	経済学部	寡占経済論	教授
12	佐島 直子	経済学部	国際政治学	助教授
13	田中 隆之	経済学部	財政金融政策	教授
14	吉田 雅明	経済学部	近代経済学史	教授
15	M アブドゥイット	経済学部	地方財政学	大学院(博)
16	施 錦芳	経済学部	アジア経済論	大学院(博)
17	溝田 誠吾	経営学部	企業形態論	教授
18	笠原伸一郎	経営学部	現代企業経営論	教授
19	張 浩川	経営学部	中小企業論	助手
20	殿村 晋一	商学部	商業史	教授
21	嶋根 克己	文学部	現代文化	教授
22	柴田 弘捷	文学部	労働社会学	教授
23	福島 義和	文学部	都市環境学	教授
24	金子 洋之	文学部	哲学	教授
25	米田 巖	文学部	地域研究	教授
26	大矢根 淳	文学部	環境社会学	助教授